

## 産業保安に向けた取り組み

### UBEグループ設備事故件数

|        | 件      |        |        |        |        |
|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
|        | 2016年度 | 2017年度 | 2018年度 | 2019年度 | 2020年度 |
| UBE    | 2      | 3      | 4      | 4      | 13     |
| グループ会社 | 0      | 1      | 0      | 3      | 2      |

2020年度は15件の事故が発生し、それぞれの原因究明を行い、再発防止策を講じました。

### UBEグループ安全・衛生・防災対策費

(百万円)



## 設備安全性評価

各事業所で設備安全性評価基準に定められた手法により、設備の新設・増産・改造時に設備安全性評価を実施しています。2020年度の実績は90件です。

### 「産業保安に関する行動計画」(石油化学工業協会)への対応状況

|                                     | 会員企業が実施すべき取り組み                       | UBEの施策・取組状況   |
|-------------------------------------|--------------------------------------|---|
| 1. 企業経営者の産業保安に対するコミットメント            | (1) 保安・安全に関する基本理念・基本方針に関するコミットメント    | 「UBE経営理念」、「UBE経営方針」、「UBEグループ環境安全基本指針」の制定<br>経営トップから社員、協力会社へ産業保安に関するメッセージの発信<br>社長と社員が直接コミュニケーションをとる「経営トップ現場座談会」を各地で開催 |
|                                     | (2) 産業保安への資源配分に対する方針に関するコミットメント      | 教育体制の構築、教育訓練施設の活用による人材育成<br>保安部門による生産計画、補修計画、設備投資計画に対する保安上の予算、人員計画等に関する意見具申   |
| 2. 産業保安に関する目標設定                     | (1) 保安に関する数値目標の策定                    | 数値目標:設備事故ゼロ   |
| 3. 産業保安のための施策の実施計画の策定               | (1) リスクアセスメント(RA)                    | 定常状態、非定常状態、新規設備・プロセス導入時に複数部署の参画による網羅的かつ多角的な見地からリスクアセスメントを実施   |
|                                     | (2) 人材育成のための教育訓練                     | 机上教育、OJT、RAへの参画、体験型教育を通して運転の原理原則・Know-whyを教育、プラントシミュレーターによる教育   |
|                                     | (3) 事故情報の活用                          | 「事故情報連絡会」で社内外の事故情報・対策の共有化と水平展開を実施   |
|                                     | (4) 組織運営                             | 設備の新設・改造、手順の変更時に運転管理部門、設備管理部門、保安管理部門、設計部門間の変更管理を実施  |
|                                     | (5) 設備保全、老朽化対策                       | 余寿命診断結果に基づく更新、補修計画の策定<br>高度な非破壊検査やタブレット端末等のIoTの活用   |
|                                     | (6) 高圧ガス設備の耐震対応、既存配管系自主耐震診断          | 高圧ガス設備の耐震基準への適合評価と対策、既存配管系の耐震診断を実施  |
|                                     | (7) 安全性向上のための新たな手法、技術の取り入れ           | 運転データ取り込みによる運転状況の解析、未来変動予測システム導入<br>運転訓練シミュレーター、スマート機器の採用   |
|                                     | (8) 協力会社も含めた安全管理の実施                  | 会社、協力会社間の安全管理に関する協議会を開催<br>工事着工前の運転管理、設備管理、協力会社の三者立ち合いによる安全確認   |
| 4. 目標の達成状況や施策の実施状況についての調査および評価      | (1) 達成状況の調査および評価に関する体制、運営            | 毎年の監査による進捗状況の確認・評価を実施<br>「経営会議」で当該年度の活動結果を踏まえて次年度の施策を審議   |
|                                     | (2) 上記の調査および評価結果への対応                 | 評価結果に基づき「経年設備の事故に対する網羅的リスク対策」「高圧ガス認定事業所の保安力向上」「自然災害対策の推進」を重点項目として実施   |
| 5. 自主保安活動の促進に向けた取り組み(安全文化の醸成)       | (1) 安全文化醸成に向けた工夫                     | グループ内、事業所内の安全表彰の実施<br>各事業所は、安全文化の改善目標、計画を策定し、改善活動を実施  |
| 6. 社外の知見の活用                         | (1) 第三者機関の活用                         | 保安力向上センターによる事業所の保安力評価を活用<br>評価結果から改善目標を設定し、活動   |
|                                     | (2) 社外への情報発信                         | 業界団体に対して安全、保安情報の提供  |
| 7. 地域社会等とのリスクコミュニケーション              | (1) リスクコミュニケーションの手段と頻度               | 地域住民との対話集会を定期的で開催<br>地域住民向けイベントの開催  |
| 8. 地震・津波などの自然災害による産業事故の発生防止に向けた取り組み | (1) 巨大地震・津波を想定した社員避難、設備のあり方についての取り組み | 地震・津波対応・避難訓練、設備・配管の耐震診断・補強<br>地震・津波対策実行計画の策定と遂行、BCP(事業継続計画)の構築  |